

※標準的な訓練プログラムのため各学校の実情を反映した内容にする必要あり

■基礎データ

タイトル	緊急地震速報による対応訓練（ショート訓練／抜き打ち）		
ねらい (学習目標)	1. 緊急地震速報の事前学習を生かし、学校内の様々な場面において、緊急地震速報を聞いた時、自分の判断で自分の身を守る対応能力を向上させる		
対象学年	全般		
教科・イベント等	対応行動訓練（授業時間以外の時間）		
訓練形態	ショート訓練（対応行動のみ・訓練時間を告知しない）		計5分
準備	緊急地震速報訓練受信端末（訓練モード）、緊急地震速報訓練用音源（津波に備える）（気象庁）、緊急地震速報訓練キット（気象庁）、その他（避難訓練で必要なもの）		

■学習の流れ

構成	内容	教職員の行動	児童の行動
1 緊急地震速報 (2分)	「緊急地震速報のチャイム音（4回）→アナウンス『地震です。落ち着いて身を守ってください。』→地震の揺れの効果音」 ※緊急地震速報訓練端末又は訓練用音源を使用	<input type="checkbox"/> 児童の行動については教職員側から指示をしない <input type="checkbox"/> その場で身を守る行動ができない児童に対しては、教職員から指示を与える ※効果音が流れても動いている児童には、その場で退避行動するよう指示を与える	<input type="checkbox"/> 緊急地震速報を聞いたら、自らの判断で、「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」安全な場所へ移動し身を守る <input type="checkbox"/> 教室以外の児童は、その場に応じた退避行動をとり、揺れが収まるまで待つ ※効果音が流れる前に、しっかり退避行動をとる <input type="checkbox"/> 放送をしっかりと聞く
2 訓練放送 (3分)	「訓練、訓練、訓練。ただ今地震が発生しました。現在、校舎内の安全確認をしています。引き続き身も守る行動をとりなさい。」	<input type="checkbox"/> 放送を受けて、児童が自分の判断で身を守る行動がとれたかを観察する	<input type="checkbox"/> 放送を受けて、引き続きその場で退避行動をとる <input type="checkbox"/> 教職員や校内放送の指示を、静かに聞く
3 訓練終了放送 (1分)	「訓練、訓練、訓練。緊急地震速報による訓練です。みなさん、その場で自分の身を守る行動がとれましたか。地震は教室にいる時に	<input type="checkbox"/> 訓練の振り返りを行う(事後学習などで指導する)	<input type="checkbox"/> 自分の行動を振り返る(事後学習などで学習する)

	<p>だけ発生するとは限りません。いつでも今日のような行動をしてください。これで訓練を終了します。</p> <p>(振り返りをする場合) この後、教室で振り返りをしてください。」</p>		
--	---	--	--

■評価ポイント

1. 緊急地震速報を聞いて、自分の判断で自分の身を守る対応行動がとれたか

■特記事項

- ・ 訓練形態を「教室（普通教室）」以外に設定することで、教職員が近くにいなくても、その場に応じた対応行動を学び・習うことができる
- ・ 訓練日時を周知しない「抜き打ち訓練」を効果的に利用することにより、訓練の形骸化を防止できる
- ・ 小学校高学年は、緊急地震速報の原理などの「理科学習」につなげることができる